

文化施策に関する市民懇話会の開催経過（概要）

	協議項目	主な意見
第 1 回 R6. 6. 6	テーマ： これまでの文化振興事業の 取組内容と課題 ・文化振興にかかる本市の これまでの取組みについて ・各委員の取組みや認識し ている課題について	・高岡には他地域と比較して豊富な文化があり、市民が芸術・文化に触れる機会が多い。一方で、すべての市民が本市の文化資源の豊かさを認識・評価しているとは言えず、情報発信やブランディングに課題がある。 ・伝統芸能、地域の祭礼、生活文化などを中心に、芸術・文化活動の担い手不足が深刻化しており、若い世代・こどもの参加機会の拡充が大きな課題となっている。 ・クラフトイベントなど、学生を参画させることで好循環が生まれているものもある。 ・伝統的な文化の中には、新たな魅力で惹きつけるため、変化させることが必要と感じられるものもある。 <取組みのヒント等> ・子どもの頃からの活動参加 ・学生の参画 ・30～40 代の活躍する場 ・深く関われる仕組み ・若い人を呼び込むためには新しい取組み ・異なる分野の連携
第 2 回 R6. 8. 27	テーマ： 文化活動を行う市民の裾野 を広げるための取組みに ついて① ・芸術・文化活動の意義 ・30 年後の市民の芸術・ 文化活動	・芸術・文化活動はいわゆるサードプレイスで、世代を超えて楽しめるもの。人とのつながりや世代間の交流を通じた心の豊かさが得られる。教養、感動、ときめき、生きがいも得られる。健康の保持にもつながる。これら活動がもたらす効果、意義は 30 年後も変わらない。 ・将来人口減少が見込まれるが、芸術文化の鑑賞・創作・活動運営・活動支援など多様な形で関わる市民の裾野を広げることを考えるべき。 ・デジタル技術の発達をはじめ、新しいものが次々と生まれる。アーティスト等は時代に合わせた変化を活動に取り入れ、新たな魅力で、市民から応援したい気持ちを得なければならない。 ・人口減少、財政縮小が見込まれる中、市や学校でできることは限られてくる。市民が能動的にやりたいことをやり、行政は環境やスキルを広げる支援をするという状況が望ましい。 <取組みのヒント等> ・複数の組織が連携することでコンテンツの幅が広がる ・継続することで認知が広がる ・現代の子どもたちには、個性を大切にしながら「感動」「納得」できるものを ・短時間、少人数での体験が好まれる ・体験を次にどうつなげるか ・市民から応援したい気持ちを得られる活動の展開 ・市民が能動的に活動できる環境やスキルの提供